

新聞紙を用いた造形活動について

井戸 裕子
(東京家政大学)

はじめに

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいに、感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。という項目が示されている。注1)

保育者をめざす学生達が、新聞紙を用いた造形活動を自ら体験することにより、幼児に楽しむ表現と実施、援助、支援する時、幼児の主体性を生かせるように考えた。

実際に学生達の新聞紙を用いた造形活動の中から多様な反応をひき出すことができた。

1. 目的

学生の造形技法の実態(注2)をみると、多種の技法が分類された。

本研究は、「丸める」「ちぎる」「ねじる」の3技法によって、何を表現したかについて考察を行う。

2. 方法

<実施方法>

- ・材料は、新聞紙全紙1枚、白ハッ切画用紙1枚を学生一人一人に配布する。
- ・画用紙に、組、出席番号、氏名を記入させる。
- ・『今日は、新聞紙で遊みましょう』と、ことばをかける。
- ・新聞紙を扱う技法は、すべて学生の自由にまかせる。
- ・学生からの要求があった場合、その時点でのリセセロファンテープを出す。
- ・活動の終りに、何を表現したか、画用紙に記録させる。

<実施対象>

東京家政大学児童学専攻1年生79人。
同短期大学部保育科2年生A組54人、B組51人
C組60人、D組54人

<調査実施日・時間・場所>

1997年4月15日 A組9時~10時
D組1時20分~2時20分 } 造形教育実習室
1997年5月26日 B組9時~10時
C組10時40分~11時40分 }

1997年6月27日 児童学1年4時30分~5時30分

15名出席

3. 結果および考察

学生の造形技法の実態についてまとめた結果は、表-1に示す通りである。

表-1 技法とその出現率

| 技法種類 | 大学1年児童79人 | | 短大2年保育219人 | |
|---------|-----------|--------|------------|--------|
| | 出現数 | 出現率(%) | 出現数 | 出現率(%) |
| 丸める | 63 | 23.1 | 155 | 22.2 |
| 巻く | 12 | 4.4 | 26 | 3.7 |
| 折る | 22 | 8.1 | 72 | 10.3 |
| ジバラ折り | 4 | 1.5 | 15 | 2.1 |
| 紙バネ折り | 1 | 0.4 | 2 | 0.3 |
| たたむ | 9 | 3.3 | 7 | 1.0 |
| ねじる | 57 | 20.9 | 112 | 16.0 |
| ひねる | 8 | 2.9 | 20 | 2.9 |
| 結ぶ | 15 | 5.5 | 45 | 6.4 |
| 編む | 0 | 0 | 4 | 0.6 |
| 三つ編 | 3 | 1.1 | 1 | 0.1 |
| ちぎる | 45 | 16.5 | 159 | 22.8 |
| 裂く | 11 | 4.0 | 16 | 2.3 |
| 破る | 3 | 1.1 | 22 | 3.2 |
| 切れ目をいれる | 1 | 0.4 | 3 | 0.4 |
| 切りぬく | 0 | 0 | 1 | 0.1 |
| 穴をあける | 3 | 1.1 | 8 | 1.1 |
| 重ねる | 2 | 0.7 | 8 | 1.1 |
| かぶせる | 1 | 0.4 | 0 | 0 |
| 包む | 9 | 3.3 | 10 | 1.4 |
| 詰め込む | 2 | 0.7 | 1 | 0.1 |
| ふくらます | 0 | 0 | 1 | 0.1 |
| つぶす | 0 | 0 | 2 | 0.3 |
| 止める | 0 | 0 | 1 | 0.1 |
| 貼る | 2 | 0.7 | 5 | 0.7 |
| 差し込む | 0 | 0 | 2 | 0.3 |
| 合計 | 273 | 100.1% | 698 | 99.6% |
| 技法種類数 | 20 | | 26 | |
| 平均出現数 | 3.5 | | 3.2 | |
| 最大出現数 | 6 | | 8 | |
| 最小出現数 | 1 | | 2 | |

“ちぎる”技法を用いて表現されたもの

- ・イカの形を平面的にちぎり、足も細長く10本にちぎる。
- ・ポンチヨ(新聞紙を半分折り、輪の部分に首がぶる様にちぎる。)
- ・草、海藻、花火、太陽のまわりに光っている線を細くちぎる。(写真参照)
- ・雨粒を表現するために細かくちぎる。
- ・印刷部分の絵又は、写真の部分とちぎるように

ちぎって白画用紙に貼る。

◎ “ちぎる.. 技法を用いて表現されたものは、すべて平面的に扱う表現である。

◎ 金紙大の新聞紙と半分に、あるいは自分の好みに合った大きさに切ることは、“ちぎる.. 技法とした。

◎ “ねじる.. “丸める.. “巻く.. “折る.. 等種々の技法を用いる前段階として表現されている。

“ねじる.. 技法を用いて表現されたもの

・ねじりドーナツ、リボン、かたつむり、へビ、魚、メガネ、スパゲティ、箸、ハンドバックの手の部分等。紙を細長くよっている。

・ヒヨコの足、象の鼻、バット、いもむし、スカイペンポン、てるてる坊主、鬼の面の髪等。

◎ “ねじる.. 技法を用いて表現されたものは、立体的表現である。“ねじる.. ことによりそのまま“ねじりドーナツ.. になる表現と、“ねじる.. ことにより“リース.. や“風鈴.. 等のつなぐ役をしている。

“まるめる.. 技法を用いて表現されたもの

・ボール、雪だるま、かたつむり、おたまじゃくし、吹き矢の矢、キャンディー、さくらんぼ、ソフトクリーム、花、象の鼻、キャベツのQちゃん等。

◎ “丸める.. 技法は、新聞紙をぐしゃぐしゃにして、硬く丸める表現と、ふわっとやわらかく丸める表現がみられる。(写真参照)

◎ “丸める.. 技法を用いて表現されたものは、すべて立体的表現である。



写真I



写真II

キャベツのQちゃん

“ちぎる.. “ねじる.. “丸める.. 技法を用いて表現されたものは、皆よめやめつたものと表現した。(本研究では表現されたものについて、数量的処理はされた。)

例えば、象の表現をみると、④立体的表現 ⑤半立体的表現 ⑥平面表現と3種に分類できる。

④立体的表現は、体は“丸める.. 足は“巻く.. しっぽと鼻は“ねじる.. 等技法を用いて、四ツ足で立つ象を表現している。

⑤半立体的表現は、体は“折り.. たたんで、少しふくらみをつけた程度、足は“丸める..、鼻は“ねじる.. の技法を用いて立体的表現している。

⑥平面表現は、“ちぎる.. 技法だけを用いて、ちぎり絵風に、平面的に顔、耳、鼻を貼る表現。

学生達の表現状況を見てみると、まず“ちぎる.. こと、特に細かくちぎって楽しむ、そのうち、細くちぎったものをまとめて“ほうき.. に見立てたり、頭にかぶって、“かつら.. (変身グッズ)にして楽しんだ。

同じく、紙の両端を“ねじる.. 表現で拘入りの“バスケット.. として作ったものを、頭にかぶって“帽子.. に見立て、『これで、ファッションショーをしましょう』『変身ごっこ』が楽しい。など感じたことや考えたことを、友達とかかわり合うことで、作られた作品がいろいろ変化した例もみられた。

“ねじる.. という技法を使って、“ワイングラス.. を作り、隣の人と二人で、『乾杯』をして、飲むしくさをした後、まるめたボールと“ワイングラス.. の中に入れ、ボールを投げたり、受けとったりし、スカイペンポンのような交流がみられた。

おわりに
学生達が自ら体験することにより、様々な表現を楽しむことが本来にめめを用いて遊ぶことの経験もできたと思われる。

新聞紙という比較的手に入れやすい素材をとり入れ、いろいろな活用の仕方があることを実感として味ったと思うと同時に展開の方法を工夫することと学んだのではない。

今後表現されたものと、平面、半立体的、立体的に分類し、数量的に処理したいと考える。又、幼児との比較についても検討したい。

引用文献

注1) 幼稚園教育要領(1989)文部省、P.11

注2) 東京家政大学研究紀要 第38集(1998)P.63